

国立公園における滞在体験の魅力向上について

インバウンド再開を踏まえ、国立公園満喫プロジェクトの更なる展開として、民間活用による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図る。

本年1月～6月に有識者検討会を開催。民間提案を取り入れ、国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした、利用拠点の面的魅力向上の取組の方向性や進め方を検討。議論を踏まえ、本年6月「宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針」を策定。

取組方針：国立公園の利用の高付加価値化に向けた方向性

- 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、その土地の生活・文化・歴史を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。
- 関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。



本日、取組方針に基づき、国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業の対象とする国立公園として、十和田八幡平、中部山岳、大山隠岐国立公園を選定。なお、他にも有望な候補とされた公園があり、今後、地元と調整した上で追加を検討。

※対象公園の選定の考え方

以下の4点を踏まえ、将来的な他地域への展開も見据えて環境省が選定

- ①広域的な利用推進の観点があること
- ②国が取組を調整・実施する意義や効果が見込まれること
- ③地域の合意形成の枠組み、利用の行動計画、環境省の体制等の基盤があること
- ④滞在型・高付加価値観光を行う具体的な利用拠点の候補を含むこと

国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした利用拠点の面的魅力向上のイメージ



国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業 対象公園の概要

十和田八幡平国立公園（十和田湖地域）

- 選定のポイント：利用拠点の再生による新たな魅力づくり

- 概要：

十和田湖地域は青森県・秋田県にまたがる。八甲田山、十和田湖、奥入瀬溪流などがある山と湖と溪流の公園。十和田湖地域の利用拠点の一つである休屋地区は、環境省所管地の集団施設地区で、多数の廃屋の撤去を進める中、跡地の活用が課題となっており、北東北観光の宿泊拠点となることが期待される。国立公園満喫プロジェクトの先行8公園の一つ。



十和田湖



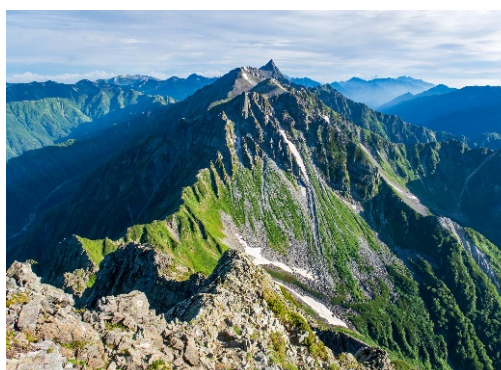
休屋集団施設地区

中部山岳国立公園（南部地域）

- 選定のポイント：山岳地域の利用の高付加価値化を含めた広域連携

- 概要：

南部地域は長野県・岐阜県にまたがる。北アルプス一帯を占める我が国を代表する山岳公園で穂高連峰や槍ヶ岳、乗鞍岳など標高3,000m級の山々や、上高地、乗鞍高原、新穂高、平湯等の標高1,500m前後の高原地域で構成。松本高山Big Bridge構想に取り組むなど広域連携を推進している。国立公園満喫プロジェクト先行8公園に準ずる+3公園の一つ。



3,000m級の山岳景観



高原地域でのアクティビティ

大山隠岐国立公園（大山蒜山地域）

- 選定のポイント：日本の伝統的自然観や歴史文化を踏まえた自然体験の拠点づくり

- 概要：

大山蒜山地域は鳥取県・岡山県にまたがる。中国地方最高峰の大山はじめ、蒜山、三徳山などの火山群とその山麓の高原地帯からなる。大山は古くから信仰の対象とされ今日でも参詣道が残っているなど、自然と歴史文化の関わりが豊かな地域となっている。国立公園満喫プロジェクト先行8公園の一つ。



大山登山



たいまつ行列（大山寺地区）

なお、他にも有望な候補とされた公園があり、今後、地元と調整した上で追加を検討。

※ 観光庁の高付加価値旅行者の誘致に向けて集中的な支援等を行うモデル観光地の取組とも連携。

国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業

今回選定した対象公園において、該当公園の利用の高付加価値化に向けた基本構想を検討。基本構想の検討にあたっては、民間提案を募集し、推進枠組みを検討する。検討状況を踏まえ、推進体制の構築状況や国立公園としての滞在型・高付加価値観光を進めるポテンシャル等の観点から、2024年度から集中的に取り組む利用拠点を合計1～2箇所選定予定。

2024年度～



民間の発想を生かした国立公園の拠点の磨き上げ、官民による集中的な取り組み実施

宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針



第1章 国立公園の利用の高付加価値化に向けた基本的な事項

(概要)

1. 背景及び本方針の位置づけ

- 国立公園は、美しい自然の風景地を保護し、利用を推進することにより、日常では体験できない感動と学びを提供する場。
- インバウンド回復に向けて、国立公園の美しい自然の中での**感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光**を推進。
- 国立公園満喫プロジェクトの垂直展開により、**世界中の観光客からの訪問先として憧れの目的地となるモデル**を構築。
- 国立公園の利用の高付加価値化に向け、自然体験アクティビティと連携した**国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設**を中心とした**利用拠点の面的魅力向上**について、**前例にとらわれず民間の知見を取り入れて**、先端モデル事業を実施

2. 現状と課題

- ①「国立公園の宿舎事業のあり方について」(2018)の実施状況
 - **国立公園の魅力を発信する新たな宿泊体験の提供**は、利用計画の観点、自然体験アクティビティとの連携、保全への還元等において課題。
 - **既存エリアの再生・上質化**は、ビジョンの共有や面的な取組拡充が課題。
- ②**滞在型・高付加価値観光の推進に向けた今後の課題**
 - **多様な利用ニーズ**への対応(本物の価値、体験型、アドベンチャー等)
 - **持続可能な観光、責任ある観光**を事業者・利用者も含めて推進し、自然環境保全を基本とする国立公園ブランドの重要な柱に。
 - 国立公園ならではの**感動と学びのある宿泊体験**の提供。

3. 国立公園の利用の高付加価値化に向けた方向性

- ◆ 国立公園の利用の高付加価値化とは、**国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、その土地の生活・文化・歴史を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者**に**自己の内面の変化**を起こす。関係者が、**持続可能で責任ある観光の姿勢**を共有し、**保護と利用の好循環**を目指す。
- ◆ ブランドプロミス「**感動的な自然風景**」「**サステナビリティへの共感**」「**自然と人々の物語を知るアクティビティ**」「**感動体験を支える施設とサービス**」実現。

① 感動体験の場となる自然環境の保全が基本であることを関係者の共通認識とする。

- 全ての関係者が、**環境・経済・社会に与える影響に配慮し責任を共有し、自然の保全と持続可能な利用に貢献する姿勢**を持つ。



② 多様なニーズに対応し、地域資源を適正に利用する。

- 国立公園のテーマ・ストーリーを踏まえた**望ましい利用のあり方**検討、**利用のゾーニング**、**環境収容力に応じた利用制限等**を実施

③ 利用者に感動体験を提供する仕組みづくりを行う。

- **インタープリテーション全体計画**(資源、伝えたい情報、望まれる体験等)で、**ブランディングと「感動と学び」の空間デザイン**推進。

④ 利用の対価を自然環境の保全に再投資する。

- 宿泊施設を中心とした**地域連携**で、**利用の対価を周辺の自然保護や利用施設の整備・維持管理に再投資**する仕組みを構築。

⑤ 自然再興、脱炭素、循環経済を実践する。

- **地域循環共生圏**(ローカルSDGs)や**自然を活用した解決策**の具体的な実践、**日本らしいサステナビリティ**に利用者が共感

⑥ 地域づくり・地域活性化に貢献する。

- **地域住民**が国立公園の魅力を再認識し、**協働型**の地域づくりを実践、**地域の課題解決**にも貢献。**広域的ネットワーク**を構築。

⑦ 民間の知見を取り入れ、官民連携を推進する。

- **相利共生型**の**管理運営**を行う**地域協議会**の枠組みを構築。**リーダー**や**コーディネーター**や、**環境省レンジャー**の役割も重要。

第2章 先端モデル事業の進め方

4. 先端モデル事業の基本的な方針

- 国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした利用拠点の面的魅力向上に取り組む、国立公園の利用の高付加価値化に向けた先端的なモデル事業を実施。
- モデル事業の初期段階から民間提案を取り入れて、適地の発掘・再発見、利用計画策定及び公園計画等への反映、具体的な事業実施。

<国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設>

- 魅力的な自然を基盤として、その土地の生活・文化・歴史等も踏まえた、感動と学びの滞在体験を提供する宿泊施設
- 持続可能な観光の観点から、自然環境や地域社会に配慮し責任をもった事業を行い、国立公園の保護と利用の好循環に貢献する姿勢を持つ宿泊施設



ヨセテ国立公園ウェブサイトより

① 国立公園スケール

- ・満喫プロジェクト地域協議会の役割が重要
- ・利用のゾーニング、解釈テーション計画
- ・事業者等が自然体験アクティビティを提供

② 利用拠点スケール

- ・リーダーやコーディネーター等の役割が重要
- ・マスタープラン（ハード・ソフトの整備計画）
- ・行政や事業者等が施設とサービスを提供

③ 宿泊施設スケール

- ・宿泊事業者の役割が重要
- ・持続可能性・責任の観点を持った事業
- ・利用者への情報提供、保護への再投資

5. 【フェーズ1】対象公園の選定及び基本構想の検討

- 2023年度中に対象公園で基本構想を検討し関係者と合意形成。

① 対象公園の選定の考え方

- 環境省が政策的な観点から3～4公園程度を選定。
 - ・広域的な利用推進の観点（周辺とのネットワーク等）
 - ・国（レンジャー）が取組を調整・実施する意義や効果
 - ・合意形成の枠組み、利用行動計画、環境省の体制等の基盤
 - ・具体的な利用拠点の候補が1つ以上

② 対象公園における基本構想（案）の検討

1) 基本構想（案）の検討

- ・国立公園の利用の高付加価値化に関する考え方（利用のゾーニング、解釈テーション全体計画の方針等）
- ・磨き上げを行う利用拠点の特定と方向性
- ・国立公園ならではの宿泊体験の提供の方向性
- ・推進枠組みの方向性と具体的な体制整備のあり方

2) 基本構想（案）への民間提案の取り入れ

- ・モデル事業への参画を希望する地域内外の幅広い業種の民間事業者等から提案を広く募集し、基本構想に取り入れる

3) 利用拠点における推進枠組みの検討

- ・合意形成等を行う推進枠組み、実施体制、コーディネーター等

6. 【フェーズ2】先端モデル地域の選定及び取組実施

- 2024年度以降、順次、具体的な事業を実施

① 先端モデル地域（利用拠点）の選定の考え方

- 実現可能性、モデル性の観点から1～2か所程度を選定。
 - ・推進体制の構築状況（自治体の参画、地域合意等）
 - ・国立公園としての滞在型・高付加価値観光のポテンシャル

② 先端モデル地域（利用拠点）における取組実施

1) フェーズ1の基本構想を決定（国立公園スケール）

2) 地域協働実施体制の構築

- ・合意形成等を行う推進枠組み、実施体制の構築、人材確保

3) 利用拠点のマスタープランの策定

- ・基本構想を踏まえ、地域協働実施体制の枠組みにおいて検討

4) 国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設の誘致

- ・サウンディング調査を通じて誘致場所や要件を決定し、事業者を公募・選定することを想定（事業スキームはさらなる検討）

5) 利用拠点の面的な魅力向上に関する取組実施

- ・宿泊施設と連携し自然体験アクティビティの提供、サステナビリティ・保護と利用の好循環の仕組み、利用施設の整備・管理等

6) 民間提案を取り入れた制度的な対応（公園計画等）

- ・各種計画の見直し、事業決定変更等、必要な対応を実施